

I. 一人の新しい人の団体の生活のために、私たちはすべての事でキリストの中へと成長し込む必要があります:

- a) キリストの中へと成長し込むことは、すべての事でキリストが私たちの中で増し加わって、ついには私たちが一人の完全に成長した人に到達することです。  
エペソ 4:15 むしろ、愛の中で真実を固く保って、私たちはすべての事で、彼すなわちかしらであるキリストの中へと成長し込むのです。
- b) 私たちはみなすべての事で、すなわち、大きい事でも小さい事でも、一つ一つの事でキリストの中へと成長し込む必要があります。私たちはまだ多くの事で、キリストの中へと成長し込んでいません。これらの事では、私たちはキリストの中にいるのではなく、キリストの外にいます。15節のキリストの中へと成長し込むことは、24節の新しい人を着ることと等しいです。13節の完全に成長した人は、24節のすでに完全に成長した一人の新しい人を指しています。  
エペソ 4:13 ついに私たちすべては、その信仰の一に、また神の御子を知る全き知識の一に到達し、一人の完全に成長した人に到達し、キリストの豊満の身の丈の度量にまで到達するのです。14 それは、私たちがもはや幼子ではなく、波にもてあそばれたり、教えのあらゆる風によって吹き回されたりすることがないためです。この教えは、誤りの体系をもくろむこうかつな人の悪巧みです。15 むしろ、愛の中で真実を固く保って、私たちはすべての事で、彼すなわちかしらであるキリストの中へと成長し込むのです。24 また、あの実際の義と聖の中で、神にしたがって創造された、新しい人を着たのです。
- c) エペソ第4章は、命の成長を通して新しい人を成就することについて語っています。キリストが創造した一人の新しい人は、機能するために成就されなければなりません。エペソ第2章15節において、私たちは新しい人が有機的に創造されていることを見ます。第4章13節から16節において、私たちは新しい人の機能の成就を見ます。  
エペソ 2:15 数々の規定から成っている戒めの律法を、彼の肉体の中で廃棄されたからです。それは、彼がご自身の中で、二つのものを一人の新しい人へと創造して、平和をつくるためであり、
- d) 一人の新しい人は、正しい養いを受けることを通してのみ、機能において完全になることができます。これは、エペソ人への手紙における最も深い概念の一つです。私たちは、養いとはぐくみを通して一人の新しい人を成就する責任を果たす必要があります。一人の新しい人は正しい養いを受けることを通して成長すればするほど、ますます正常に機能します。  
エペソ 5:29 自分の肉体を憎んだ者はかつてなく、むしろ、キリストが召会に対してなされるように、それを養いはぐくむのです。
- e) 私たちは団体の新しい人の成長のために、十字架につけられ、復活し、昇天し、下ってくるキリストを経験する必要があります。それによってすべてを含むキリストは私たちの中へと造り込まれて、私たちのすべてとなります。そうすれば、有機的に完全な新しい人は、機能においても完全になります。

II. 一人の新しい人の団体の生活のために、私たちはイエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶ必要があります:

- a) 20節で、パウロはキリストを学ぶことについて語っています。キリストは私たちにとって命であるだけでなく、模範でもあります。主イエスは地上の生活の中で、型、鑄型を設立しました。救われることは、神によってキリストの中へと入れられることです。バプテスマによって、神は私たちを型であるキリストの中へと入れました。バプテスマされることは、鑄型としてのキリストの中へと入れられることです。鑄型の中へと入れられることによって、私たちは古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着ました。キリストを学ぶことは、鑄型としてのキリストの中へと入れられることです。これは、彼が地上にいた年月に設立した型の中へと鑄込まれることです。
- b) 「イエスにあるあの実際」という表現は、四福音書に記録されているような、イエスの生活の実際の状態を指しています。イエスの生活は実際の生活でした。17節と21節において、私たちは思いのむなしさとイエスにあるあの実際の対比を見ます。実際とは光の輝きです。光は源であり、実際は表現です。主イエスは、光である神の輝きです。主の地上の生活のあらゆる面には光の輝きがあったので、彼の生活は実際の生活、すなわち輝く神ご自身の生活でした。その実際の生活は神の表現でした。  
エペソ 4:17 こういうわけで、私はこの事を言い、また主の中で証しをします。もはやあなたがたは、異邦人が彼らの思いのむなしさの中を歩くように、歩いてはなりません。ヨハネ 8:12 こうして、イエスは再び彼らに語って言われた、「私は世の光である。私に従う者は、決して暗やみの中を歩くことがなく、命の光を持つ」。
- c) 一人の新しい人の生活は、イエスの生活と全く同じであるべきです。主イエスが地上で生活した方法は、今日新しい人が生活すべき方法です。私たちの生活の標準は、イエスにあるあの実際にしたがっていなければなりません。彼は神と一でした。彼は神の中で、神と共に、神のために、すべての事を行なう生活をしました。イエスの人の生活は、あの実際、すなわち神ご自身にしたがっており、義と聖に満ちていました。私たちはキリストを学び、彼の中で教えられて、実際の生活をする必要があります。私たちは思いの霊にしたがって生きるなら、団体の新しい人の生活を持ちます。それはイエスにあるあの実際に符合する生活です。  
マタイ 11:28 すべて労苦し重荷を負っている者は、私に來なさい。そうすれば、私はあなたがたに安息を与える。29 私は心の柔和なへりくだった者であるから、私のくびきを負い、私から学びなさい。そうすれば、あなたがたは魂に安息を見いだす。30 なぜなら、私のくびきは負いやすく、私の荷は軽いからである」。  
ヨハネ 5:30 私は自分からは何も行なうことができない。私は聞くとおりに裁く。そして私の裁きは正しい。なぜなら、私は自分の意志を求めないで、私を遣わされた方のみこころを求めらるからである。6:38 なぜなら、私が天から下って来たのは、自分の意志を行なうためではなく、私を遣わされた方のみこころを行なうためだからである。
- d) 召会生活は一人の団体の新しい人の日ごとの歩みです。それはまた、性質と様式において絶対に新しい歩みです。一人の新しい人に関するものはすべて新しいです。エペソ 4:24 また、あの実際の義と聖の中で、神にしたがって創造された、新しい人を着たのです。25 そういうわけで、偽りを脱ぎ捨て、おのおのその隣人と共に真実を語りなさい。なぜなら、私たちは互いに肢体であるからです。26 怒ったとしても、罪を犯してはいけません。日が暮れるまで、憤ったままではなりません。27 また、悪魔に所を得させてはいけません。28 盗みをしている者は、もう盗んではいけません。むしろ、必要のある人に分け与える物を得るために、労苦して、自分自身の手で正当に働きなさい。適用: 古い人を脱ぎ去り新しい人を着る生活は、うそをつかず真実を語る生活です。古い人の生活は無意識のうちに小さなうそをつきます。例えば本音は邪悪なものなのに、外観を良くするために表面的なことを言って邪悪な動機を隠します。また古い人の生活は、あることで感情を害するとずっと怒りの中に留まり続けます。怒りの中に留まり続けると悪魔に捕らえられてしまいます。さらに私たちは自分自身の手で正当に働き、他人から盗んではいけません。他人の業績を自分が行ったように言うことは、ある種の盗むことです。あなたが行ったのは四分の一であるのに半分以上自分が行ったと言うなら、それは他人の業績を盗むことです。古い人の中には盗む性質があります。私たちは、古い人を脱ぎ去り新しい人を着て、またあの実際であるキリストを学んで、うそをつくと、怒り続けること、盗むことから救われる必要があります。
- e) 一人の新しい人は神ご自身にしたがっており、神の命と性質を持っているので、神聖である命を持っているに違いありません。そのような命は団体的なものであって、単独のものではありません。

## 経験①: 学校生活を通じて、霊的機能を発展させる

生まれた時、幼子は有機的には完全です。すなわち、幼子はすべての必要な器官をもっています。しかしながら、子供は生まれた時、機能的に完全ではありません。…正しく発達し、正常に機能するために、すべての子供は養われ、はぐまれる必要があります。この原則はまた、新しい人としての召会に当てはまります。エペソ人への手紙第2章15節において、私たちは新しい人が有機的に創造されていることを見ますが、第4章13節から16節において、私たちは新しい人の機能の成就を見ます。

エペソ人への手紙第4章16節は極めて重要な節です。…私たちの命における成長は、かしらであるキリストの中へと成長し込むことですが、からだの中での私たちの機能は、彼から機能し出すことです。「それぞれの部分」という語句は、からだのあらゆる肢体を指しています。キリストのからだのあらゆる肢体にはそれ自身の度量があり、活動してからだを成長させます。からだは、供給する節々と活動する各部分を通してそれ自身を成長させます。からだの成長は、召会の中のキリストの増し加わりであり、その結果はからだ自身の建造です。

### 中高生編

エペソ4:15 むしろ、愛の中で真実を固く保って、私たちはすべての事で、彼すなわちかしらであるキリストの中へと成長し込むのです。16 この方から、からだ全体は、その豊富な供給のあらゆる節々を通して、またそれぞれの部分の度量に応じた活動を通して、結合され組み合わされ、からだを成長させ、愛の中でそれ自身を建て上げるに至るのです。

あなたは救われたとき、神から生まれて、霊的に必要な器官をもっています。しかし、それらの器官が十分に機能するためには成長と訓練が必要です。例えば、一歳の赤ちゃんには二本の足がありますが、足の機能が十分に発揮されるためには訓練が必要です。彼らはミルクを飲んで成長しながら、寝返りやハイハイなどの訓練を経過して、伝え歩きをし、歩くようになり、最終的に走れるようになります。この時点で足の機能が成就されたと言えます。あなたの霊的な機能というのは、主の御名を呼び、御言葉を祈り読みして、主を食べ飲みすることです。それから自分の勉強や学校生活のために祈ります。更に友人の救いのために祈り、福音を伝えます。六種類の新人を養い、育みます。また、パンさきの集会の様々な奉仕や主日のランチを作る奉仕、主日の集会で人々に神の言葉を語り、供給することなどの機能があります。あなたは主を食べ飲みすること、祈ること、福音を伝えること、新人を養い、育むことなどの機能において徐々に成長する必要があります。急ぐ必要はありませんが、少しずつ前進しなければなりません。

あなたは中間試験の時に、以前は必死に勉強するだけでしたが、救われた後、自分のテストのために祈りながら、思いを霊に付けて勉強するように訓練します。少し時間がたった後、共に集会をしている兄弟姉妹のために祈るようになります。これは一つの成長です。その後、主はあなたに友達についても祈るように語るかもしれません。そこであなたは「おお主イエスよ！ 私の友人を救ってください！」と祈るかもしれません。そうすればあなたは福音を宣べ伝えるために負担を持ち、友達に主の話をすべし。これが霊的機能の発展です。

## 経験②: 思いを霊に付けて、イエスにある実際にしたがってキリストを学ぶ生活を実行する

エペソ人への手紙第4章21節のイエスにあるあの真実、あの実際は、17節の思いのむなしさとの対比です。諸国民は思いのむなしさの中を歩いていますが、私たち信者は、イエスにあるあの実際にしたがって生活をします。主イエスは地上で生きていた時、決してむなしさの中を歩かれませんでした。そうではなく、彼は常に実際の中を、すなわち、神聖な光の輝きの中を歩かれました。これは、主イエスは神の表現の中を生き、歩かれたことを意味します。私たちは、イエスにあるこの実際にしたがってキリストを学んできました。

主イエスは地上での三十三年半において、鋳型、型を形成されました。彼を信じる人たちはみな、それに同形化されるべきです。四福音書の記録によれば、主イエスの生活は実際の生活でした。実際は光の輝きです。光は源であり、実際はその表現です。ヘブル人への手紙第1章3節が言っているように、主イエスは神の栄光の輝きです。これが意味することは、彼は光である神の輝きであるということです。地上での主の生活のあらゆる面には光の輝きがあったので、彼の生活は実際の生活、神ご自身を輝かす生活でした。その実際の生活は神の表現でした。こういうわけで、私たちはイエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶのであるとパウロは言っているのです。言い換えれば、私たちはイエスの生活の鋳型にしたがってキリストを学びます。イエスの生活は実際です。

### 在職青年編

エペソ4:17 こういうわけで、私はこの事を言い、また主の中で証しをします。もはやあなたがたは、異邦人が彼らの思いのむなしさの中を歩くように、歩いてはなりません。18 彼らは、理解することで暗くなり、彼らの中にある無知のゆえに、その心のかたくなさのゆえに、神の命から遠ざけられ、19 感覚を失ってしまい、自分自身を淫蕩にゆだねて、飽くことなくあらゆる不潔を行なっています。20 しかしあなたがたは、そのようにキリストを学んだではありません。21 もしあなたがたが真に彼に聞き、そして彼の中で、イエスにあるあの実際にしたがって教えられているのであれば、24 また、あの実際の義と聖の中で、神にしたがって創造された、新しい人を着たのです。

異邦人の思いのむなしさとは、お金を儲けて安定した生活をしたい、できれば立派な家に住んで贅沢な生活をしたい、高い地位に就き人からの賞賛を受けたい、人を管理する地位を得たいなどです。彼らがこのように考えるのは、理解することで暗く、心が神に対してかたくななゆえです。このような思いのむなしさの中を歩くと、罪や汚れに対して無感覚になってしまいます。その結果、高い地位に就きお金を儲けると、罪の快樂にふけるようになったり、性格の不一致などの理由をつけて妻を裏切り、離婚したり(彼らが離婚する理由は単純に情欲のゆえです)、傲慢な人となり、人に敬遠されたりします。

あなたは「思いのむなしさ」から「思いの霊」に転換して下さい。ビジネス・ライフにおいて異邦人は皆、程度の違いはあれ「思いのむなしさ」の中を歩いています。あなたは世の中にあって異邦人とは異なる証しを立ててください。そのためにあなたはクリスチャンとして、まず内側から変えられるべきです。思いを霊に付けてキリストを学ぶために次の三つのことを実行して下さい。

- i. 霊があなたの存在の中で一番強い部分になる: あなたには三部分、霊と魂と体があります。1 テモテ4:7 しかし、俗悪で、老婆じみた作り話を拒絶し、自分自身を訓練して、敬虔へと至りなさい。8 なぜなら、体の訓練には多少の益はありますが、敬虔はすべての事柄に益があつて、現在の命の約束と、来たるべき命の約束を伴っているからです。9 この言は信実であつて、全く受け入れるに値します。あなたは体を訓練して筋肉を鍛えるように、霊を訓練して霊的な筋肉をつける必要があります。このために重要なことは、毎日少しずつ霊を訓練することです。毎朝復興の実行は霊の訓練に最も重要な習慣です。霊が魂より強くなければ、次の段階の思いを霊に付けることはできません。なぜなら、思いを霊に付けることは思いが霊に依存することであるからです。
- ii. 業務遂行において思いを霊に付ける: 会社に行く時、思いを霊に付けなければ、実際的にはあなたはキリストをあなたの家や集会所に置き、会社にはキリストのない状態で行ってしまいます(これはキリストがあなたの中に内住しないということを行っているではありません)。会社の中でプロジェクトについて、プロジェクト・メンバーについて考える時、思いを霊に付けて主と共に主の中で考えることを訓練してください。このことは決して難しいことではありません。あなたは訓練すればするほどできるようになります。このようにして実際のプロジェクト遂行において、神の祝福と輝きがあなたと共にあるようになります。ヘブル1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の明確なかたちであつて、…
- iii. キリストを学び彼の中で教えられて、実際(むなしさと相対する)のある生活をする: あなたはキリストという鋳型の中に入れられました。キリストの生活の中には実際があります。四福音書を読んで、霊を活用し、思いを霊に付けてキリストを学ぶことを毎日のビジネス・ライフで実行して下さい。あなたが古い人を脱ぎ捨て新しい人を着たことはキリストを学んだことの現れです。